

「地域交流・高齢者福祉複合施設ひだまりの里」のデイサービス部門の使われ方  
 ー山口県阿武町における高齢者福祉施設のネットワーク構築に関する研究 その6ー

正会員 ○三島 幸子\*  
 中川 麻衣\*\*  
 正会員 中園 真人\*\*\*  
 正会員 山本 幸子\*\*\*\*

福祉複合施設 高齢者デイサービス 使われ方  
 廃校活用

1. はじめに

本報では「地域交流・高齢者福祉複合施設ひだまりの里」のデイサービス部門を対象とした使われ方調査結果を元に、活動プログラムと活動場面の分析を行い、使われ方の特徴と廃校活用の有効性を明らかにする。

調査内容は平面図の作成、活動場面記録調査である。平面図は実測調査を行い、家具配置も記録している。活動場面記録調査は、平成23年9月18日ー9月23日の6日間、終日(午前9時から午後4時)10分間隔で利用者及びスタッフの施設内での行動観察を行い、行為の内容と場所を平面図に記録するとともに、ビデオ・写真撮影を行った。

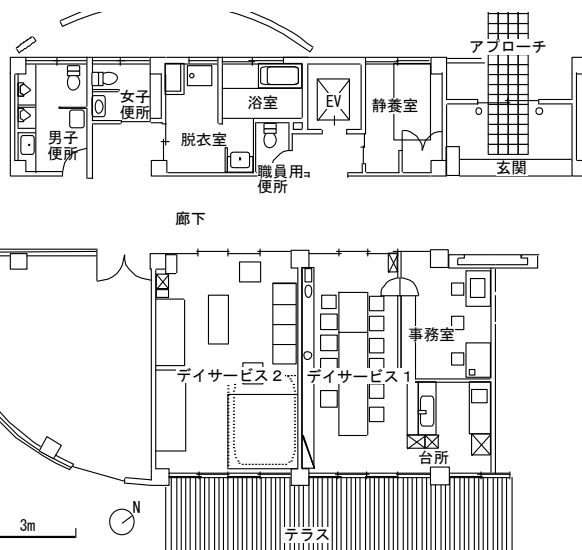


図1 平面図

2. 施設の空間構成

デイサービスセンター部門の平面図を図1に示す。デイサービスの広い玄関があり、部屋と近くに配置されている。機能訓練室はデイサービス1とデイサービス2の2部屋に別れている。デイサービス1には台所と事務室が配置されている。事務室は施設全体の管理事務室となっている。デイサービス1の左の1列が全て上下に分かれた収納棚になっているが、デイサービス2には収納棚はなく、全体的に収納場所がない。そのため、棚を利用して足りない収納を補っている。また、デイサービス1、2に面して広いテラスがある。廊下を挟んで便所、浴室の水周りがまとめられており、また、ベッドを1つ置くことしかできない程度の広さの静養室がある。

全体的にデイサービスで必要な空間がコンパクトにまとめられており、利用者もスタッフも移動距離は短くて済むようになっている。



写真1 ひだまりの里 デイサービス

3. 利用者及びスタッフの属性

利用属性と利用形態を図3に示している。清ヶ浜デイサービスセンターが休みの日のみ利用する奈古の利用者がいるが、それを除いて宇田、惣郷のみで近場の利用者が多い。年齢は85歳以上が6割以上を占めて多く、性別は女性が7割を占めている。介護度は要支援が多いものの、要介護4の利用者も3名利用している。清ヶ浜デイサービスセンターと併用している利用者や清ヶ浜デイサ

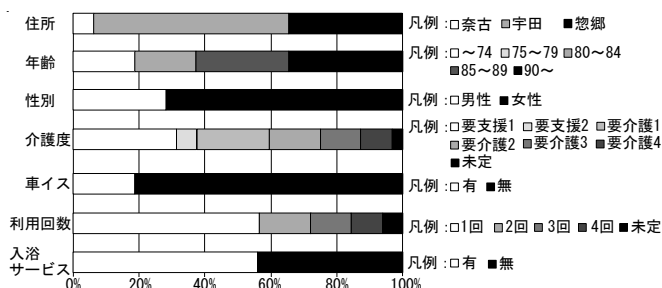


図2 利用者の基本属性と利用形態

表1 スタッフの属性

性別・年齢	介護の資格	福祉経歴 年数	現施設 勤務年数	役割				
				施設長	送迎	入浴介助	体操	調理
F50	介護福祉士	11年	1年6ヶ月	○	○	○	○	○
M30	介護福祉士	7年	1年		○	○	○	○
F55	ヘルパー2級	14年6ヶ月	1年5ヶ月		○	○	○	○
F60	ヘルパー2級	5年6ヶ月	1年6ヶ月		○	○	○	○

The use of the day services division of the abolished school 'Local Exchange and Elderly Welfare Complex Facility, HIDAMARI-NO-SATO'  
 Network Construction of Welfare Facilities for Old People in Abu Town Yamaguchi Prefecture (Part 6)

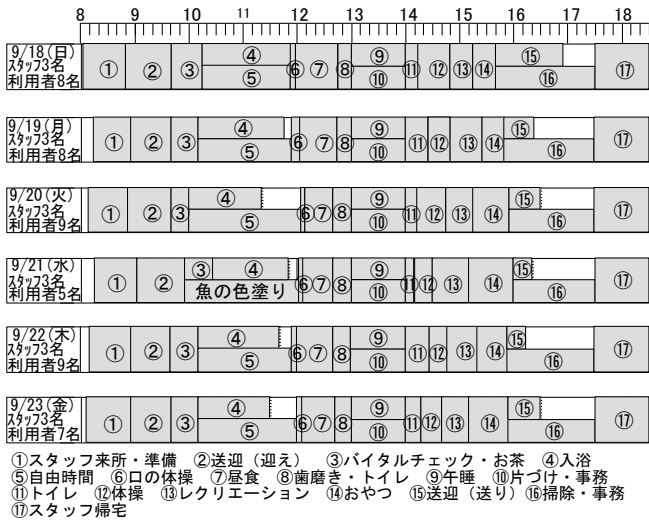


図3 プログラム

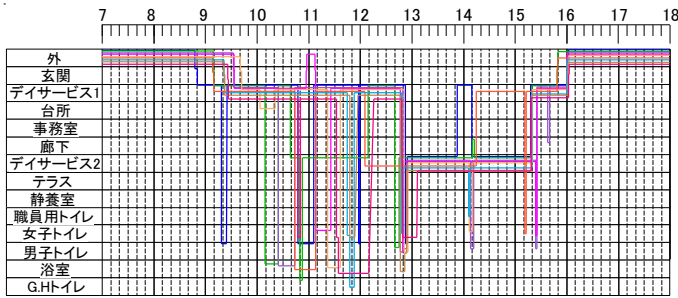


図4 利用者の居場所 (9月22日)

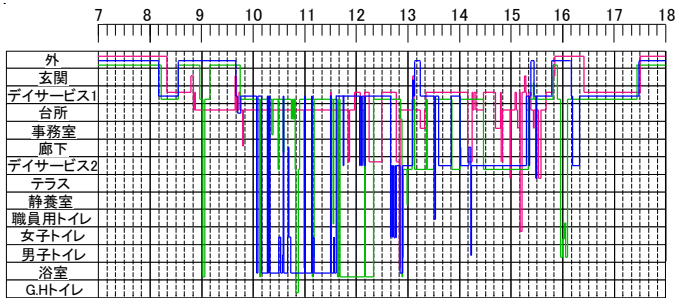


図5 スタッフの居場所 (9月22日)

サービスセンターから移った利用者があるためである。車イスは2割弱の利用者が使用しており、介護度3、4の利用者が主に使用している。利用回数は要支援の利用者が多いこともあり、週1回の利用が5割以上を占めている。一方で週4回以上利用している利用者も4名いる。入浴サービスは4割程度しか利用しておらず、介護度の高い利用者を中心に利用している。

スタッフの属性を表1に示す。スタッフは全員資格を持っている。福祉経験年数は比較的長いスタッフが多い。役割分担については基本的には全て行なっているが、調理のみ男性スタッフは行なっていない。

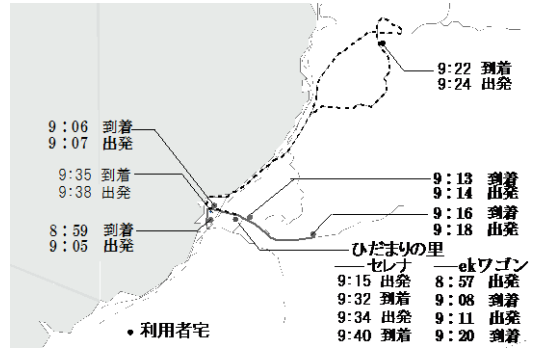


図6 ルートマップ (9月22)

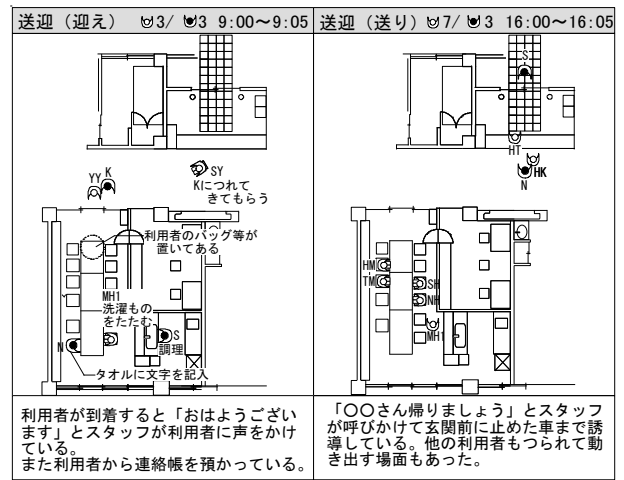


図7 送迎の様子

#### 4. 一日の生活プログラム

調査期間6日間の一日の生活プログラムを図3に示す。一日の生活プログラムは大きく、(1)8:50~9:30:送迎(迎え)(2)9:30~10:00:バイタルチェック・お茶(3)10:10~11:50:入浴及び自由時間(4)11:50~12:00:口の体操(5)12:00~12:40:昼食(6)12:40~13:00:歯磨き・トイレ(7)13:00~14:00:午睡(8)14:00~15:10:体操・レクリエーション(9)15:10~15:30:おやつ(10)16:00~送迎(送り)に区分される。

利用者の居場所の一例を図4に示す。利用者は午前中デイサービス1を居間として過ごしている。午前中は入浴サービスが中心となっている。午後はデイサービス2で午睡・体操・レクリエーションを行い、プログラムに応じて部屋を使い分けている。

スタッフの居場所の一例を図5に示す。午前中は入浴サービスで担当の利用者は浴室とデイサービス1を往來している。調理を担当するスタッフは主に台所で午前中を過ごしている。また、午後は事務を主に行うスタッフが1人おり、午後でもデイサービス1で過ごしている。

#### 5. 利用者の行動パターン

##### 5.1 送迎

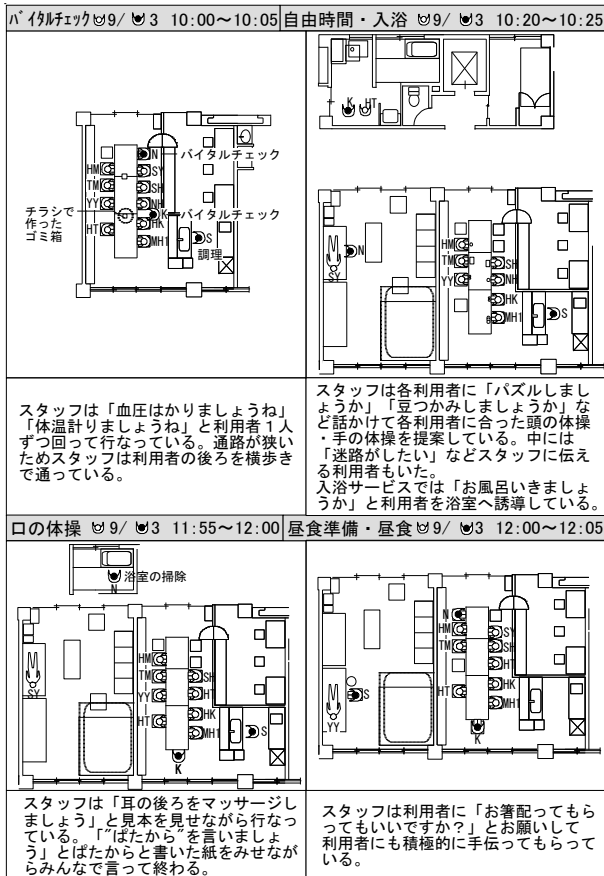


図8 利用者の居場所と行為 (午前)

1) 送迎 (迎え)

送迎時 (迎え) は基本的に 2 名のスタッフがワゴン車と軽自動車の 2 台で数回に分けて送迎している。基本的には軽自動車は宇田、ワゴン車は惣郷を担当している。ルートマップを図6に示す。宇田の利用者は施設から近い場所に多いため、1 往復の送迎の時間は短い。一方で、急斜面の上に住んでいる利用者もいるためスタッフは軽自動車で送迎し、車でも入れないような住居の場合は車を止め徒歩で家の前まで迎えに行っている。また、施設から近く、歩いて来所する利用者もいる。アプローチには手すりが設置しており、玄関がデイサービス 1 の部屋に近いので、比較的元気な利用者は 1 名で移動できるが、1 度に送迎する人数が少ないため、スタッフは利用者 1 名ずつの誘導もできる。

2) 送迎 (送り)

時間になるとスタッフはアプローチ前に準備しておいた車へ利用者を誘導している。送りの送迎も行きと同じように数回に分けて送迎している。待ちきれなくなった利用者が他の利用者につられて玄関に行く場面があったが、玄関が広く椅子も置いてあるため、座って休憩できることもあり混雑する様子は見られなかった。

5.2 生活行動

1 日の生活の様子を午前、午後を分け図8、9に示す。

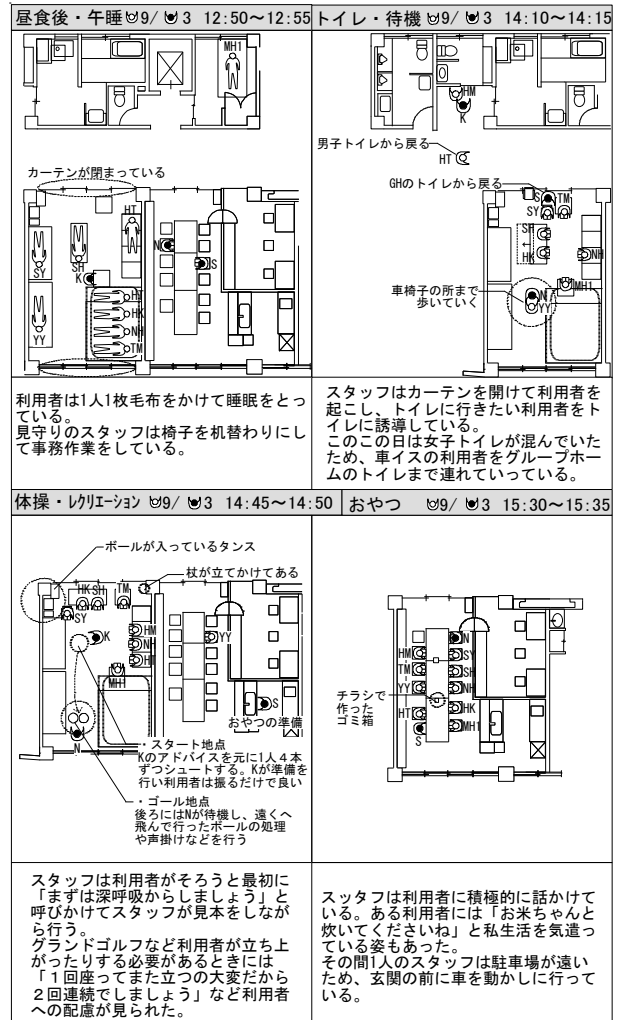


図9 利用者の居場所と行為 (午後)

1) 入浴、自由時間

調理のボランティアが来る日もあるが、この日は居なかったため、1名のスタッフが調理を担当している。1名のスタッフが入浴サービスを担当し、もう1名のスタッフが利用者の様子を見る担当など役割分担をして、常に利用者の様子を見られるようにしている。調子の悪い利用者や眠そうにしている利用者に対しては声をかけ、デイサービス2の部屋で静かに睡眠を取れるようにしているが、デイサービス1からは様子が見えないため、スタッフは部屋を行き来する必要がある。また、午前中の中に6~7名入浴するため、1人のスタッフでは難しく手伝えることもあることからその間は利用者の様子を見ることができていない時間もあった。

2) 口の体操・昼食準備・昼食

昼食前にはスタッフ1人が担当して口の体操を行なっている。口の体操をすることによって消化を良くする効果があることからきている。

口の体操が終わると、昼食の準備が始まる。利用者も

箸配りやランチョンマットを配るなどの手伝いをしている。スタッフは盛りつけ担当、ご飯担当、配る担当に分かれて準備しているが、キッチンが狭いため2人いるだけで動きにくくなっている。準備が大体できるとスタッフは「食べていいですよ」と声をかけて食べ始める。中には自分の前に料理が来ると勝手に食べ始めている利用者もいた。

### 3) 午睡

食べ終わった利用者はスタッフに誘導され、便所や浴室で歯磨きをしてデイサービス2へ行く。スタッフが寝る場所も誘導し、介護度の高い利用者はベッド、介護度の低い利用者はソファや絨毯が敷いてある所で寝ている。スタッフは部屋のカーテンを閉めて電気を消し、1人のスタッフが見守りとして部屋に残っている。他のスタッフはデイサービス1で事務作業や、寝たくない利用者の相手をしたりしている。部屋が2つに別れているため、寝ない利用者も寝ている利用者の邪魔をすることなく過ごせている。

### 4) トイレ、体操、レクリエーション

時間になるとスタッフはカーテンを開けて利用者を起こし、トイレに行きたい利用者を誘導している。介護度が低い利用者はトイレが近いこともあり、1名で行く様子もあった。この時間は便所が混雑し、特に車イス用の便所が無く女子便所が使われているためグループホームの便所まで連れていくこともあった。

基本的に全員そろってから体操が始まる。それまではお話しして過ごすことが多い。2名のスタッフで1名のスタッフを中心に行なっている。体操は椅子に座ってできることのみ行なっている。その後道具を使ったゲームを行う。この日はグランドゴルフをしている。利用者が楽しめるようにスタッフが積極的に利用者へ声をかけている。最後に歌を歌って終わることが多い。

その間1人のスタッフは事務作業やおやつ準備などを行なっている。おやつ飲み物は1人ひとり利用者へ聞いてから準備している。

### 5) おやつ

利用者がデイサービス1の部屋に戻るとスタッフはおやつを配る。スタッフも一緒に食べている日もある。送迎の時間になるまでお話しして過ごすことが多い。

その間1名のスタッフは駐車場が遠いため、この間に車を玄関前まで移動させている。

## 6. まとめ

本論では地域交流・高齢者福祉複合施設を対象に、施設

表2 プログラムと空間の対応関係

プログラム	長所	短所
送迎	・複数回に分けて送迎するため、利用者の乗車時間が少ない ・アプローチに手すり、玄関に椅子があり、また部屋に近いので利用者が移動しやすい	・玄関から駐車場が狭いため、利用者を誘導してから車を止める間に時間のロスがある
バイタルチェック	・分担を決めて効率良く行なっている	・空間が縦長いため、スタッフは利用者の後ろを横歩きで通っている
自由時間・入浴	・分担を決めることによって利用者の様子を常に見れるようにしている ・部屋が2つあるため、調子の悪い利用者や寝たい利用者は静かに睡眠を取ることができる	・調理にスタッフが1人取られるため、入浴サービスを1人でするのは難しく、手伝う間は利用者の様子を見れない ・デイサービス2の部屋は1からは見えないため、休んでいる利用者いる場合にはスタッフが部屋を行き来する必要がある ・脱衣室の洗面台が浴室の扉の目の前にあり腰壁で区切っているため、洗面台も使いにくく浴室へも入りにくい ・浴室が狭い
昼食準備・昼食		・台所が狭いため、スタッフが2人入ると動きにくくなる
午睡	・2部屋あるため寝ない利用者も寝ている利用者の邪魔にならなく過ごせる	
トイレ・待機	・部屋から便所が近いため、スタッフは部屋と便所の行き帰りの様子が見える	・便所の数が少ないため、グループホームの便所を使うこともある ・デイサービス2の部屋が細長いので、車いすを部屋の奥まで持っていくことができない
体操	・部屋が分かれているためスタッフは事務作業など静かにできる	・空間が狭いためグランドゴルフの様な広い空間が必要な際には利用者は席の移動が必要になっている
おやつ	・入口が近いため、お弁当の配達など来客への対応がしやすい	・駐車場が玄関から遠いため、1人のスタッフへの対応がしやすい ・来客への対応が必要がある

の使われ方の特徴に関して検討した。得られた知見は以下の通りである。

- 1) 機能訓練室が2部屋に分かれているためプログラムに応じて部屋の使い分けができ、また寝たい利用者も気兼ねなく別室で静かに睡眠を取ることができる。
- 2) それぞれ部屋の幅が狭いため、利用者が座ると後ろの通り抜けをしにくいことや、車椅子を部屋の奥まで入れることができないなどの問題がある。特にデイサービス1では台所と事務室もあるため、全体的に狭い。
- 3) 機能訓練室と便所の距離が近いため、スタッフは利用者の行き帰りの様子を見ることができる。一方で番所の数は不足している。

小学校の管理部門をデイサービスに活用した例で、廊下の広さや機能をコンパクトにまとめることが出来ている点は評価できる。一方で、教室などメインの部分グループホームとして使用していることもあり、1部屋の広さが狭い点や、管理部門の位置をそのまま残し施設全体の管理事務室が機能訓練室内に位置しており、グループホームのスタッフにとって使いにくくなっている点は問題であると考えられる。

## 謝辞

本研究を進めるにあたり、藤山千佳子氏(阿武福祉会特別養護老人ホーム「恵寿苑」園長)、「ひだまりの里」の職員の方々、利用者の方々には度重なる調査にご協力いただいた。末尾ながら記して謝意を表します。

\* 山口大学大学院理工学研究科 修士  
\*\* 山口大学工学部感性デザイン工学科 学部生  
\*\*\* 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博  
\*\*\*\* 山口大学大学院理工学研究科 助教・博士(工学)

\* Graduate student, Yamaguchi Univ.  
\*\* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.  
\*\*\* Professor, Yamaguchi Univ., Dr.Eng  
\*\*\*\* Assistant Professors, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.